

新たな観光の核づくり推進本部が できました!!

今年2月に神奈川県「新たな観光の核づくり認定事業」に認定されたことを受け、7月に「観光の核づくり担当」を設置しました。

これにより、「新たな観光の核づくり推進本部」を町役場本庁舎1階ロビー奥に構えました。推進本部は、「観光の核づくり」に携わる関係団体の皆さんの活動の場としても利用され、これからの大磯町の観光の核づくりの活動拠点となる場所です。

横浜・鎌倉・箱根に次ぐ、第4の観光地となるべく、国内外に強力で発信できる魅力的な新たな観光地「大磯」を創出する取り組みを皆さんと一緒に進めていきます。



▶本庁舎1階に設置された推進本部

問 産業観光課 新たな観光の核づくり担当 ☎内線265

大磯運動公園多目的広場の 芝生化に向けて

現在、大磯運動公園の指定管理者である(株)ランナーズ・ウェルネスにより、多目的広場の北側の一部で、ポット苗方式の芝生の試験植栽を行っています。6月に苗を植え、順調に成長していますが、試験植栽の結果が良好ならば、平成26年度には全面的に芝生の植栽を行う予定です。

問 都市計画課 ☎内線243



▲一部試験的に芝生化された多目的広場

平成26年4月1日から 3市3町で公共施設の 相互利用を開始!!

町では3市3町広域行政推進協議会(平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町及び中井町)との間で、公共施設の相互利用の協定を結びました。

町民の皆さんは、平成26年4月1日から同協議会構成市町の一部の体育館やテニスコートなどの公共施設について市町の住民と同じ料金で利用できます。

各市町の相互利用できる対象施設については、町ホームページをご覧ください。

なお、使用料、利用時間、利用方法などの詳細は、各施設へ直接お問い合わせください。

問 政策課 ☎内線229

町長が走る!!²⁵

東日本大震災被災地 福島県相馬市、南相馬市 浪江町、飯舘村を視察



▲浪江町職員を前にあいさつ

7月23日(火)と24日(水)に福島県相馬市、南相馬市、浪江町そして飯舘村を視察しました。

今回、私が被災地に赴くのは、一昨年の7月に宮城県石巻市などを視察した時以来の2回目となります。

震災から約2年4か月経った被災地に赴き、街の復興状況や住民の生活環境などの現状を自分自身の目で確認しながら、市長や村長をはじめそれぞれの市町村の皆さんからお話しを伺いました。

視察先の相馬市、南相馬市の両市長、飯舘村の村長は、震災当時から市長でもありましたので、災害発生時の初動体制のあり方や行政機能の確保から災害時の首長の果たすべき役割、また、リーダーシップの発揮の仕方など、震災時の体験を交えながらお話いただき、災害に備える大切さを再度、痛感いたしました。

本町においても、今回の大震災は決して他人事ではなく、改めて備えの重要性を強く感じさせられるとともに、町民の生命財産を守るために、今後も災害対策の充実を一層図っていかねばならないと決意しました。

皆さんも、いつ起こるともわからない災害に備えた対策を家族や地域で今一度考えてみてください。最後に一刻も早い被災地の皆様の復興をご祈念申し上げます。

大磯町長 中崎 久雄
問 政策課 ☎内線205